

極早生温州がまもなく収穫期に入ります。  
食味を確認し、着色の進んだ果実から順次収穫しましょう！  
また、早生温州は樹上選果を進め、収穫に備えましょう。

## 1 令和5年9月の気象

令和5年9月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は全体的に平年より高く、特に第3半旬以降は著しく高かった。月平均気温は26.7℃で、平年より3.0℃高く、前年より1.8℃高かった。

降水量は第1半旬は平年並み、第2半旬は台風13号の影響で線状降水帯が発生し263mmを記録した。それ以降は降雨がほとんどなかった。月合計は298mmで、平年比134%、前年比215%であった。

日照時間は第2、第4半旬が平年より少なく、それ以外は平年より多かった。月合計は192時間で、平年比126%、前年比122%であった。

9月は全体的には平年と比べて気温は高く、降水量は短期間で多く、日照時間は平年より多かった。

表1 令和5年9月の気象（アメダス館山測候所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	27.8	25.7	26.1	27	28	14	39	30	31
2	26.0	25.2	26.8	263	36	0	15	29	29
3	27.0	24.3	25.5	0	39	0	44	27	33
4	28.3	23.3	26.0	0	39	39	47	25	18
5	24.8	22.3	22.7	4	40	66	15	22	9
6	25.9	21.4	22.3	5	40	20	33	21	39
平均/計	26.7	23.7	24.9	298	222	139	192	153	158

※暖地園芸研究所の気象観測装置の不具合により、アメダス館山測候所データを引用

## 2 果実及び樹の生育

10月2日における調査園の果実生育状況を表2に示した。横径は「日南1号」が6.4cmで平年比94%であった。「興津早生」、「大津4号」、「青島温州」が3地区の平均でそれぞれ6.3cm、6.5cm、6.4cmで、平年比でそれぞれ107%、103%、103%であった。

縦径は「日南1号」が4.7cmで、平年比92%であった。「興津早生」、「大津4号」、「青島温州」が3地区の平均でそれぞれ4.9cm、4.6cm、4.7cmで、平年比でそれぞれ102%、98%、98%であった。

果形指数は、「日南1号」が1.4、「興津早生」、「大津4号」、「青島温州」が3地区の平均でそれぞれ1.3、1.3、1.4であった。「興津早生」は平年並み、「日南1号」、「大津4号」「青島温州」はやや扁平傾向であった。

夏季の乾燥後の多雨により、裂果がやや多かった。また、主に早生温州でカメムシの吸汁による着色ムラ、落果等が一部見られた。

表2 果実の生育（令和5年10月2日）

品 種	調査地	横 径 (cm)			縦 径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	暖地園研	6.4	6.8	6.5	4.7	5.1	5.0	1.4	1.3	1.3
	三芳地区	5.5	5.9	6.1	4.2	4.8	5.0	1.3	1.2	1.2
興津早生	千倉地区	7.1	5.8	5.7	5.7	4.7	4.5	1.2	1.2	1.3
	暖地園研	6.2	6.0	6.7	4.8	4.9	5.5	1.3	1.2	1.2
	平 均	6.3	5.9	6.2	4.9	4.8	5.0	1.3	1.2	1.2
大津4号	三芳地区	5.8	6.2	6.5	4.4	4.8	5.1	1.3	1.3	1.3
	千倉地区	6.4	6.4	6.3	4.5	4.6	4.7	1.4	1.4	1.3
	暖地園研	7.2	6.4	7.1	5.0	4.7	5.2	1.4	1.4	1.4
	平 均	6.5	6.3	6.6	4.6	4.7	5.0	1.4	1.4	1.3
青島温州	三芳地区	5.9	6.1	6.6	4.4	4.8	4.9	1.3	1.3	1.3
	千倉地区	6.5	6.1	6.3	4.7	4.7	4.6	1.4	1.3	1.4
	暖地園研	6.8	6.3	7.2	4.9	4.8	5.3	1.4	1.3	1.4
	平 均	6.4	6.2	6.7	4.7	4.8	4.9	1.4	1.3	1.4

注1) 各地点の各品種の値は40果の平均

2) 果形指数は横径/縦径

3) 平年は平成5年～令和4年の30か年の調査データの平均値

### 3 「日南1号」の果実品質

「日南1号」の果実品質を表3に示した。

着色程度は平年並である。糖度は平年及び前年より高い傾向であった。酸度は平年及び前年より低かった。そのため、甘味比は平年及び前年より高かった。

果肉歩合は平年及び前年よりやや高い傾向であった。

まもなく収穫期に入ると判断される。

表3 極早生温州「日南1号」の果実品質（令和5年10月2日）

調査地	着色程度 (0~10)			糖 度 (%)			酸 度 (%)			甘味比			果肉歩合 (%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
暖地園研	4.7	4.1	5.0	9.6	8.5	8.8	0.90	1.03	1.16	11.2	8.5	7.8	85.8	84.7	84.3

注1) 平年は平成27年～令和4年の調査データの平均値

2) 甘味比=糖度/酸度

3) 果肉歩合=(果肉重/1果重)×100

## 4 10月の栽培管理

### (1) 極早生温州の収穫

着色の良好な果実から順次収穫していく。収穫時のハサミ傷や落果は収穫果実の腐敗の大きな要因となるため、果実は丁寧に扱う。収穫直後の果実は果皮の水分が多いので予措を行う。コンテナに果実を7分目ほど入れ、風通しのいい日陰に2～3日置くと、果皮がしなやかになり、選果や出荷時の傷果の発生予防になる。

### (2) 早生温州の樹上選果

収穫1ヶ月前の10月上～中旬に、傷果や裂果、病虫害被害果などの商品価値のないものを取り除き、収穫、運搬及び選果の労力を軽減する。

### (3) 浮皮症の軽減対策

収穫期に過湿条件であると浮皮症が発生しやすいので、防風垣を刈り込んで通風を良くし、排水対策を講じて園地の乾燥に努める。

### (4) 秋肥

早生温州では11月上旬、普通温州では11月中旬に、ともに窒素、りん酸、加里をそれぞれ10a当たり分量で6、4、6kg追肥する。秋肥は適期に施用することが重要で、早すぎると着色の遅れや浮皮果が生じ、逆に遅すぎると低温のため吸収が悪くなる。乾燥の影響で樹勢が低下した樹には収穫後直ちに液肥を散布する。

### (5) 病虫害の防除

10月中旬～11月上旬には、貯蔵病害である青かび病及び緑かび病の防除のため、殺菌剤の散布を行う。

ミカンハダニやカメムシ類は発生に応じて防除を行うが、極早生温州等の収穫を間近に控えた品種では、農薬の使用基準にある収穫前日数に注意する。

カメムシ類の防除は活動が活発になる夕刻に行うと効果的である。合成ピレスロイド剤は比較的残効性が長く、効果が高いが、天敵類に及ぼす影響も大きく、カイガラムシ類やハダニ類の発生が助長されるので注意する。

※農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

《 生育情報の発行元 》千葉県農林水産部生産振興課

《 生育情報の問合せ先 》千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室

電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>